

KOINUMA MICHIO

肥沼美智雄 とその時代

2022.4.16 SAT - 6.19 SUN

開館時間：9:30-17:00 ※ 入館は閉館30分前まで 休館日：月曜日（祝休日の場合は翌日）、
春の陶器市開催時は、5月2日開館、10日休館。 入館料：大人600円(550円)、小中学生
300円(250円) ※ ()内は20名以上の団体/65歳以上300円(要証明) 主催：益子町文化のまち
づくり実行委員会、益子陶芸美術館

後援：下野新聞社、とちぎテレビ、栃木放送、エフエム栃木、真岡新聞社

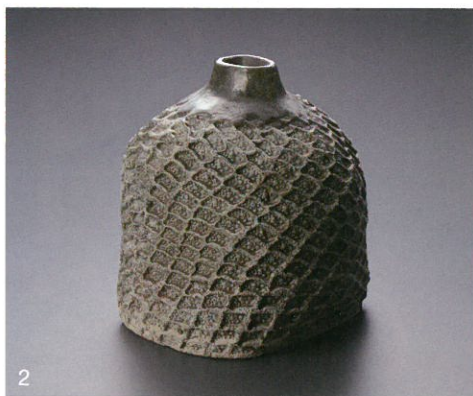
※ 今後の状況により、展覧会予定に変更が生じる場合がございます。最新情報は、当館ホームページ・
Facebook・Twitter等でご確認ください。

益子陶芸美術館 陶芸ムッセ・益子
Mashiko Museum of Ceramic Art
栃木県芳賀郡益子町益子3021 TEL:0285-72-7555
URL: <http://www.mashiko-museum.jp/>  

KOINUMA MICHIO



1



2



3



4



5



6

1. 肥沼 美智雄 《彫文壺》 1980年頃 益子陶芸美術館 2. 肥沼 美智雄 《壺》 1973年頃 益子陶芸美術館
 3. 肥沼美智雄 《壺》 1981年 益子陶芸美術館 4. 肥沼 美智雄 《花器》 1978年頃 益子陶芸美術館
 5. 肥沼 美智雄 《刻文花生》 1979年頃 益子陶芸美術館 6. 肥沼美智雄 《兜》 2008年頃 益子陶芸美術館

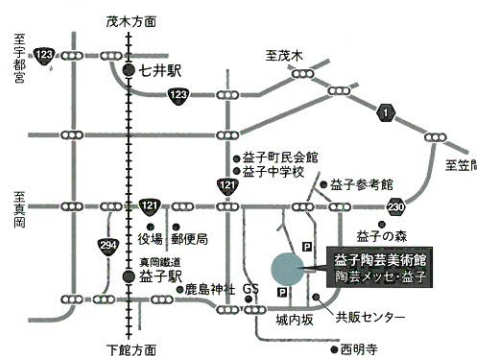
肥沼美智雄は1936年東京都に生まれ、1969年益子町に「一黙窯」を築きました。以降、益子を拠点として数々の作品を世に生み出してきましたが、2020年8月に84歳の生涯を閉じました。中国古代の青銅器や埴輪を想起させる堅牢な形体に、黒々とした古銅のような肌を持つ作品群。肥沼の作品は、さまざまな要素を連想させると同時に、他にはない未知の造形で鑑賞者の目を愉しませてくれます。

益子は江戸末期より施釉陶の歴史を築いてきました。その一方で1970年頃から、加守田章二に傾倒し、土味を生かした造形表現を探求する気風が生まれました。肥沼もまた加守田章二に憧れ、益子で陶芸を始めた一人であり、作陶開始当初より次々と新たな作品を展開していきました。ロクロで成形するという種々の枷にとらわれない制作手法は、造形表現の可能性を拓けることとなったのでしょう。

本展では肥沼作品を中心として、同時代に益子で作陶した作家による作品とあわせて約60点を紹介します。

出品作家：肥沼美智雄、加守田章二、瀬戸浩、小滝悦郎、大宮司崇人、菊池昭、伊藤信、宮澤章

Access



【バス】東武宇都宮駅西口1番バス乗り場、JR宇都宮駅西口14番バス乗り場から関東バス益子行、またはJR秋葉原駅から茨城交通高速バス「関東やきものライナー」笠間・益子行で陶芸メッセ入口下車徒歩2分。

【鉄道】JR小山駅から水戸線下館駅下車、下館駅から真岡鐵道益子駅下車徒歩25分。

【自動車】常磐自動車道友部JCT経由、北関東自動車道桜川筑西ICから20分。東北自動車道栃木都賀JCT経由、北関東自動車道真岡ICから25分。

※ 運行状況は各交通機関にご確認ください。

益子陶芸美術館 陶芸メッセ・益子 Mashiko Museum of Ceramic Art

栃木県芳賀郡益子町益子3021 TEL:0285-72-7555
 URL: <http://www.mashiko-museum.jp/>